



オバマ氏再選確定

米大統領選

ロムニー氏振り切る

【ワシントン共同】木村一浩】米大統領選は6日投票開票され、主要メディアは民主党現職のバラク・オバマ大統領（51）が共和党のミット・ロムニー候補（65）を振り切り、再選を確実にしたと報じた。景気と雇用が最大の争点となった選挙で米国民は、経済再生には富裕層増税や福祉充実など「公平な社会」実現が必要だと訴えたオバマ氏を信任した。



▲9月、米ノースカロライナ州シャーロットでの民主党大会で、手を振るオバマ大統領（右）とバイデン副大統領（A P = 共同）

米大統領選開票状況
(日本時間7日午後1時10分現在)

米主要メディアによる	獲得		得票率
	選挙人数	州	[得票数]
オバマ (民主)	267	22	48% [36,767,979]
ロムニー (共和)	191	22	50% [38,076,750]
計	458	44	
未確定	80	7	※敬称略

※選挙人総数は538、過半数は270。州の数には首都ワシントンを含む

減税や規制緩和など「自由競争の徹底」を掲げたロムニー氏は、オバマ氏に対する保守派の不満を追い風に善戦。だが中間層を軽視しているとの印象が最後まで響いた。オバマ氏は、アジア重視や多国間協調の外交路線を2期目も継続する見通し。米社会では党派や人種間の分断があらためて露見しており、オバマ氏は核兵器廃絶などの理想実現に向けて国内各層をまとめ上げる指導力が問われる。

選挙戦でオバマ氏は、ブッシュ前共和党政権が招いた経済危機を脱し、景気回復を軌道に乗せたと一貫して主張。中間層を支援して米国の競争力を復活させると訴え、金融規制改革や医療保険改革の実現、イラク戦争を終わらせ、アフガニスタン終戦に道筋を付けた実績を強調した。

ロムニー氏は実業界での実績や経済手腕への期待で幅広い支持を集めたが、中間層を見下すような発言や政治信条の変遷がマイナスとなった。オバマ米大統領は短文投稿サイト「ツイッター」で支持者に謝意を伝えた。事実上の勝利宣言。